



APA PRESENTS 2022 KING'S & QUEEN'S

11月25~27日
サンスクエアボウル・東京ポートボウル

大久保雄矢 1年目の初Vで実力証明 久保田彩花 足踏みからの新たな1歩



アパグループの特別協賛で誕生した本大会は、第3回を迎えた今年も、男子128名、女子110名のプロが参加して、都内北区のサンスクエアボウル(女子及び男子決勝)と、港区の東京ポートボウル(男子予選・準決勝)の2会場で行われ、男子は今年デビューの大久保雄矢(60期・フリー)が初タイトルを獲得すれば、女子は久保田彩花が3年ぶりの4層目を挙げた。(主催：(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛：アパグループ)

◀同じ奈良県出身、また同じ人(辻本博樹さん)から教わっているという大久保(左)と久保田が優勝



▲今季2勝目はならなかった坂本「もうちょっと思い切って判断ができればよかったかなと思う」



◀3位決定戦は、急ぎよ蹴り足を跳ね上げない投法で臨んだ姫路270を打たれてはどうやってもかき回すことができなかったと、やったことのないことに挑戦して収穫ありでした



▲新人戦2位、レギュラーツアーでも千葉オープン3位など存在感を発揮していた大久保が、1年目でタイトルホルダーに

男子

男子の予選、準決勝は、1週前のSSSカップと同じ東京ポートボウル。この大会でもレフティー有利の流れは変わらなかった。1位の森本健太以下上位6位までを占め、右では永野すばるが7位、木村晃が8位で決勝ラウンドロビンに滑り込んだ。

会場をサンスクエアボウルに移しての決勝ラウンドロビンでは、ふたりの逆襲があるかと思われたが、結局進出順位のままに終わった。総当たり戦を



▲「右レーンのアジャストがうまくいかず、どうしたらよかったのかわからないまま終わってしまった」と斉藤

7勝1敗の大久保がトップシード、小原照之が2位、斉藤琢哉が3位での進出となり、前年優勝の志摩竜太郎は、次点の4位にとどまった。

3位決定戦は、終盤まで互角の展開だったが、ともに4フレから続いていたストライクが、小原は8フレで切れたのに対し、斉藤は10フレ1投目まで伸ばし、256:226で斉藤が勝ち上がった。

その斉藤は、女子の3位決定戦ををさんだ優勝決定戦で「そんなに変わっていないだろうと思っていたら、練習ボールで1個もストライクがこない。やばいなという状態で始まった」。一方、大久保は「外の方が不利だと思ったので、思い切り中に寄って、スピード調整だけをした」と、もたつく斉藤を尻目に1フレから6連発。そのまま246:203で快勝、デビュー1年目でのタイトル獲得を果たした。

女子

女子は、ラウンドロビンの中盤から坂本かやと久保田彩花の首位争いが続いていたが、ポジションマッチを269:201で制した坂本がトップシード、久保田が2位、そして姫路麗が3番目の椅子を確保。大会前の時点で、ポイントランキングは姫路が1位、坂本が2



▲「周りを見るよりレーンに集中して、落ち着いて対応できた」と、3年ぶりのタイトル獲得の久保田

位、久保田が3位につけており、その3名がTV決勝に進出した。

3位決定戦、久保田の1フレは③④⑥⑦のスプリット。「いつもならパニックになったと思うけど、これは変化したなと思って中に寄った」と、2フレから見事な10連発で、276:207と姫路を圧倒した。

優勝決定戦でも久保田は、ダブルスタートのあと3フレのスペアをはさんで4フレからフィフスとほぼ完璧な内容。一方の坂本は「ポジションマッチのときから左レーンに不安があったので、10フレが右になるようにレーン選択したけど、最後まで全然アジャストできずに終

わってしまった」と完敗を認めた。247:182で制した久保田

が、4度目のTV決勝進出でようやく今季初優勝を飾った。

今月の表紙

男子優勝・大久保雄矢

準決勝の前にボールをサンディングして投げたら、イメージがよくて969(4G)を打てた。決勝のサンスクエアボウルは、プロテストですごくイメージがよかった。そのときにも有効だったロックオン・ウレタンだけで通した。ただ普段は、ピンアクションがよくてレーンに左右されにくいリアクティブをメインに考えていて、リアクティブがダメなときの保険でウレタンを使うタイプ。

優勝の実感はまだあまりない。ただプロテストの実技ではトップ合格だったのに、原口(優馬)プロにレギュラートーナメントのタイトル獲得で先を越されたので、自分も早く優勝したいという気持ちが強かった。だからうれしいですね。また成績が出るにつれて、先輩からも話しかけてもらえることが多くなって、トーナメントに出るのが本当に楽しい。

優勝ボール：コロンビア300
ロックオン・ウレタン

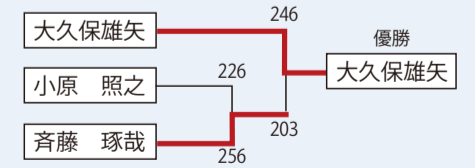
女子優勝・久保田彩花

優勝決定戦は、男子がみんな左利きの人だったので、あまり変化していないだろうな、あとは(坂本)かやちゃん次第だなと思っていた。かやちゃんが弱い目のボールで中から私のラインをまたぐ感じだったので、これは内ミスがきくかと、ポジティブにとらえられた。その優勝決定戦と3位決定戦に関しては、投げミスもあったけど、それほど悩まずに投げられた。

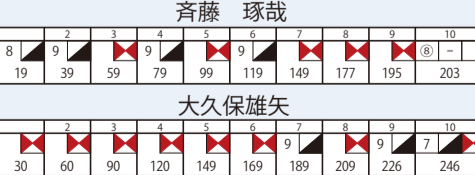
今年はステップラダーに残っても勝てなくて、大岡産業は明らかに自分のせいだけど、ほかは納得のいかない負け方が多くて…。みなさんからも惜しいねって言われ続けているのがずっと苦しかった。何をすればいいのかわからなかったけど、そんななかでも少しフォームをいじったり、投げる軸を変えたりと取り組んできたのが、実を結んだのかなと思う。

優勝ボール：900GLOBAL (ABS)リアリティ・エックストゥエルブ

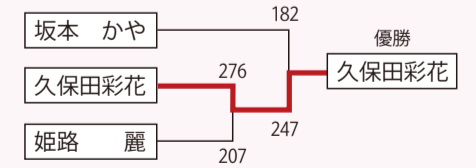
男子TV決勝ステップラダー



男子優勝決定戦



女子TV決勝ステップラダー



女子優勝決定戦

